

学校だより 椎の苗木通信 10月号



木城の明日を担う心豊かでたくましい人づくり

木城町立木城中学校

(木城町教育大綱の基本理念)

夢・力・花いっぱい

木城中学校校内文化祭

10月14日(日)に『Time goes around ~その一瞬に輝け~』のローガンのもと校内文化祭が行われました。体育大会が終わって、文化祭への準備が始まりました。文化祭実行委員長中嶋素羅さんを中心に、実行委員が話し合いを重ねながら準備が進められました。文化祭当日は、1年生の発表「地域の宝を探そう」を皮切りに、英語暗唱・弁論、国語意見発表、2年生の「職場体験学習」発表が午前中に行われました。昼食・昼休み・バザーを挟んで、午後からは3年生の劇「母さんに乾杯! ~命のリレー~」が上演されました。最後は、合唱コンクールが行われ、短い間にクラス全員で作上げた課題曲と自由曲が披露されました。午前中からご来場のご来賓や保護者・地域の方に素晴らしい歌声を届けてくれました。



合唱コンクール審査結果

金賞	3年A級	課題曲	G i f t s
		自由曲	言葉にすれば
	3年B級	課題曲	G i f t s
		自由曲	証
銅賞	2年B級	課題曲	G i f t s
		自由曲	君と見た海

指揮者賞 3年B級 重永 麗 くん

伴奏者賞 2年B級 宮田和湖 さん



第42回西都児湯地区中学校秋季体育大会

台風の影響で9月29日(土)~10月5日(金)の期間に開催された地区中体連秋季大会では、卓球部女子の準優勝を皮切りに、女子ソフトテニス部が団体戦で優勝、軟式野球部が優勝というたいへん輝かしい結果がもたらされました。個人戦でもたくさんの生徒が県大会に出場します。木城中生徒の大健闘に保護者はもちろんのこと、地域の方からの称賛の声を頂いております。



地区駅伝大会男子の部Aチーム優勝!

10月16日(火)に西都市公認コースで行われた地区駅伝競走大会には、本校からは男子2チーム・女子1チームがエントリーしました。その結果、6区間で行われた男子駅伝の部でAチームが見事優勝しました。また、ロードレース大会男子の部では、3年B級森崎真人くんが第3位に入りました。

生徒会役員感謝状授与式及び任命式

旧生徒会役員への感謝状授与と新生徒会役員への任命式が10月19日(金)に行われました。まず、旧生徒会役員一人ひとりが一年間の活動を振り返り今の心境を話してくれました。1年間本当にご苦労様でした。また、新役員を代表して生徒会長の中下大和くんが生徒会活動対するに抱負と決意を述べてくれました。これまでの経験を生かして、新役員を引っ張っていってくれることを期待したいと思います。



「人権の花」運動感謝状贈呈式

10月3日(水)に本校体育館で「人権の花」運動の感謝状贈呈式が行われました。木城小高田校長先生のごあいさつと主催者挨拶の後、花苗贈呈式や苗植え作業などの人権啓発活動に関する本校の取り組みに対して、木城町人権擁護委員の方より感謝状をいただきました。児童・生徒を代表して、生徒会長大橋奎心くんがお礼の言葉を述べました。式終了後には人権擁護委員や法務局の方々と記念写真撮影を行いました。



校長雑感

木城中で史上初?…優勝旗3本!

この秋の中体連の大会は、木城中の生徒たちの活躍がめざましかった。選手推戴式では、「がんばれ」と子どもたちに声をかけた私だが、まさかここまでがんばるとは…。驚いた!

秋季大会で、私は女子ソフトテニスの会場責任者だったので、ソフトテニス部の選手の闘いぶりは、一喜一憂しながら一球一打を見守った。思い返せば、決勝トーナメント1回戦での苦しい闘いを、なんとか勝ちきることができたことで、木城中に流れがやってきたように思う。運も味方につけ、実力以上の力を発揮しての優勝だったのではないだろうか。

翌日、ソフトテニスの個人戦が行われている会場に、野球部優勝の吉報が届いた。後で顧問に話を聞くと、こちらも、スコア以上に厳しい場面、苦しい試合を一つ一つクリアしていきながらつかんだ優勝であったようだ。

駅伝大会。1区、トップで返ってきたたすきを全員でつないだ。ほとんどの選手が自己ベストをたたき出したのではないだろうか? たすきリレーでは、一度もトップを譲ることなくゴールテープを切る堂々の優勝だったが、最終区では一旦追い抜かれ、再度抜き返すという、デッドヒートを制しての勝利だった。

正確には調べようもないが、優勝旗が一度に3本も学校に来るのは、木城中始まって以来の出来事ではないかと思われる。さらに、優勝ではないものの、卓球女子も準優勝し、県大会出場を勝ち取った。本当に快挙だ。新しい歴史を創った今年の木城中の生徒たちだ。十分に誇っていい結果だと思う。

ただ、上で述べたように、いずれの競技も、ぎりぎりのところで何とか手にした勝利だということを忘れてはいけない。負けたチームは、今頃その悔しさを噛みしめながら猛練習をしているかもしれない。浮かれていると、次の大会では簡単に足下をすくわれることになる。

さらに、ナンバー1となったチームは、部活動だけでなく、学習面や生活面でもナンバー1であることを求められる。西都児湯1番のあいさつができているか? 勉強でも清掃でも、西都児湯で1番熱心に取り組んでいるか?

勝って兜の緒を締める武将のように、実るほど頭を垂れる稲穂のように、謙虚さ・誠実さでもナンバー1の木城中生であってほしい!